

令和2年度

事業報告書

◇株式会社 ひなたぼっこ

◇デイサービス ひだまり
・地域密着型通所介護

◇デイサービス えんがわ
・地域密着型通所介護

株式会社 ひなたぼっこ 事業報告書

1 法人理念

- ・ 利用者やご家族の皆様から信頼される事業所を目指します。

「皆様からの信頼を得るために、出来る限りの受入れを致しました。例として、事前情報で暴力行為があるという方でも受け入れし、限界まで誠意を尽くさせていただきました。他利用者に危害が及ばないうちに断念した方もおりますが、ただ断るだけでなく行ってみてからの判断をしたため、本人・ご家族からは納得していただいております。特にえんがわ事業所では年度初めから満床近くの稼働率だったため、入れ替わりなく円滑に行えました。」

- ・ 優しさと温かさに満ちた事業所を目指します。

「例として、暴力行為を受けたとき又は受けそうになった時でも、対話をもって沈静させております。時には親子喧嘩・兄弟喧嘩のような口論になるときもありますが、結果的には温かい対応だと利用者様からお言葉をいただいております。今年度は職員誰でもではなく、管理者もしくはその日の職員の中で管理者に準ずるものに限定した対応といたしました。」

- ・ 明るく元気のある事業所を目指します。

「若い職員が半数を占める事業所ですが、皆、明るく活発に従事してくれております。特に今年度は年配職員の方が全体を牽引していました。」

- ・ 地域に開かれた事業所を目指します。

「法律に定められている運営推進委員会を年に二回（今年度は新型コロナウイルス流行のため 3/26・5/29・3/29 分が中止）開催しております。地域の方々にご報告させていただいております。コロナ渦が沈静化に向かいませんが、次年度は特にえんがわの運営推進委員会を発足（5/29 を予定）させて、法令遵守の二回開催を目指します。」

2 運営方針

利用者様が安心して充実した環境や利用者本位のケアを提供し、ご家族、地域の皆様とのふれあいにより事業所の温かさが一層感じられるような居宅サービスの提供に努めます。利用者様本位のケア計画を作成し、サービス提供することによって、『第二の我が家』に近付けるよう努めます。

「利用者様本位のケア計画を作成し、サービス提供することによって、『第二の我が家』に近付けるよう努めました。また、介護記録（ケース記録）を介護計画書に準じて記録することにより、モニタリングを行いやすくいたしました。ケアマネジャー様やご家族への報告がより適宜に行うことができ、安定した利

用者確保に努めました。特に次年度はひだまりの職員（管理者候補）確保に努め、安定した利用者確保に努めます。」

3 株主総会（地域運営推進会議兼務）の開催

5月24日 午前10時00分 開催 同 10時50分閉幕

5月 年度事業報告、決算の承認（注1）

3月 翌年度 事業予算案、事業計画の審議（注2）

※ 上記以外の地域運営推進会議は必要に応じて開催。

※ 株主総会は決算報告時に開催

（注1） ひだまりは令和2年5月26日を令和2年8月26日に実施
えんがわはコロナ渦により中止

（注2） 令和3年3月26日（ひだまり）及び令和3年3月29日は、新型コロナウイルス流行の影響を受け未実施

4 事業運営

① 第二種社会福祉事業

地域密着型 通所介護（デイサービス ひだまり）経営

目標として、実人数18名（月）延べ人数250日、平均利用人数8.0人を目指す。

4月	実人数19名	延べ人数251日	活動日数30日	平均利用人数8.4人
5月	実人数19名	延べ人数262日	活動日数31日	平均利用人数8.5人
6月	実人数19名	延べ人数259日	活動日数30日	平均利用人数8.6人
7月	実人数17名	延べ人数249日	活動日数31日	平均利用人数8.0人
8月	実人数15名	延べ人数235日	活動日数31日	平均利用人数7.6人
9月	実人数16名	延べ人数223日	活動日数30日	平均利用人数7.4人
10月	実人数16名	延べ人数188日	活動日数31日	平均利用人数6.0人
11月	実人数16名	延べ人数213日	活動日数30日	平均利用人数7.1人
12月	実人数17名	延べ人数203日	活動日数31日	平均利用人数6.6人
1月	実人数18名	延べ人数209日	活動日数31日	平均利用人数6.7人
2月	実人数14名	延べ人数180日	活動日数28日	平均利用人数6.4人
3月	実人数14名	延べ人数187日	活動日数31日	平均利用人数6.0人
合計	実人員200名	延べ人数2659日	活動日数365日	平均利用人数7.3人

地域密着型 通所介護（デイサービス えんがわ）経営

目標として、実人数 15 名（月）延べ人数 250 日、平均利用人数 8.0 人を目指す。

4月	実人数 17名	延べ人数 232日	活動日数 30日	平均利用人数 7.7人
5月	実人数 17名	延べ人数 263日	活動日数 31日	平均利用人数 8.5人
6月	実人数 18名	延べ人数 257日	活動日数 30日	平均利用人数 8.6人
7月	実人数 18名	延べ人数 264日	活動日数 31日	平均利用人数 8.5人
8月	実人数 18名	延べ人数 284日	活動日数 31日	平均利用人数 9.0人
9月	実人数 17名	延べ人数 280日	活動日数 30日	平均利用人数 9.0人
10月	実人数 18名	延べ人数 277日	活動日数 31日	平均利用人数 9.0人
11月	実人数 17名	延べ人数 255日	活動日数 30日	平均利用人数 8.5人
12月	実人数 17名	延べ人数 299日	活動日数 31日	平均利用人数 9.0人
1月	実人数 17名	延べ人数 289日	活動日数 31日	平均利用人数 9.0人
2月	実人数 16名	延べ人数 251日	活動日数 28日	平均利用人数 9.0人
3月	実人数 16名	延べ人数 282日	活動日数 31日	平均利用人数 9.0人

合計 実人員 206名 延べ人数 3233日 活動日数 365日 平均利用人数 8.7人
今年度の事業活動収支増減差額目標額は、589,211円以上で

次期繰越の額を、-10,000,000円以下にする。

今年度の当期資金収支差額合計目標は、3,000,000円以上で

当期末支払資金残高の額を、10,000,000円代に乗せる。

今年度の事業活動収支増減差額は、7,200,877円

次期繰越は、-3,388,333円

今年度の当期資金収支差額合計は、4,612,234円

当期末支払資金残高は、13,842,132円

5 新規事業の展開

将来的には、高齢者福祉のみならず障害者福祉にも着手することで、高齢者・障害者・障害児の融合した福祉サービスの展開をしたいが、そのための資金集めに今年度は徹する。

(1) 同一敷地内で障害者共用の同規模型 通所介護を共存する。

(2) 同一敷地内で障害児共用の小規模型 通所介護を共存する。

「当年度は『4.事業運営』の通りですが、障害者の融合までは着手できませんでしたが、代表取締役の知人より障害者グループホームの買収の依頼がありました。着手するかどうか検討中です。」

6 重点施策

(1) 経営基盤の確立・強化

現行事業所の特徴の周知と利用者の獲得強化を図る。

①事業所の数値目標：2店舗とも稼働率90%以上を目指す。

②現行事業所が、居宅支援事業所等に全職員が営業マンとしての意識付けを行い、利用者の確保に努める。収益を増やす方法をリスト化し、職員の協力のもとその実施を進める。

「年度当初の稼働率は安定しておりましたが、ひだまり事業所の宿泊利用者2名の突然の退所（ケアマネとの連携不足）を境に下降してまいりました。職員確保も難しく、えんがわ事業所が満床傾向のため充足しなければならず、結果的に、ひだまり事業所は少人数の利用者で、現有職員で運営せざるを得ない状況となってしまいました。目標数値にはひだまり事業所が遠く及ばず、営業不足を痛感しております。しかし特徴の周知は図れた年度だと自負しております（稼働率80.9%）。えんがわ事業所は目標数値をクリアしており、継続を目指します（稼働率98.4%）。」

(2) 人材確保と職員の資質向上

現行利用者の重度化への対応及び介護（入浴）サービスの向上のため、職員の確保と資質の向上を進める。

①ハローワークや社会福祉協議会等を通じて介護求職者へのアプローチの場を増やし、採用に繋げていく。

②県内の社会福祉養成校や見学の受け入れ等により、新卒や新規資格取得者の獲得を目指す。

③キャリアパスの実施により職員に求めるレベルを明確にし、資質の向上に繋げる。

④人事考課制度を導入することによって職員全体のレベルの底上げを図る。

⑤退職金制度を周知し、職員が安心して働き続ける環境を整備する。

⑥各種マニュアルを整備し、業務手順の統一化をする。

「ハローワークの採用人数は少ないのですが、平均的にお声掛けしていただいております。しかし、今年度は採用に至っておりません。派遣会社で採用がありましたが一日も持たずに辞められております。介護技術に関してはえんがわの職員が遂行レベルを上げており、働きながら初任者研修を取得し給料アップにつながる職員もおります。また振り返り表により昇給をしたものもおります。しかしながら、人事考課制度の導入、退職金制度の導入、各種マニュアル整備は程遠く達成には至っておりません。」

(3) 地域との調和、アクティビティの充実

福祉資源を活かし、地域に親しまれる施設づくりを目指して、災害時の福祉避難所の役割や地域の介護支援を担い、特に今年度は、正しい感染症予防対策をすることで、地域にも浸透させ地域貢献を目指す。

①町内会のお祭り等行事はコロナ感染のため中止だと思われるので、地域のために何か少しでも貢献できることを行う。

②通所介護施設同士の横の繋がりを強化し、情報交換がより円滑に行えるように交流を進める。

③社会福祉実習の受け入れを積極的に行い、地域の福祉人材育成に寄与する。

④ボランティアの受け入れ環境を一層強化し、地域住民による福祉貢献の下支えを行う。

「程遠く実施には至っておりません。今年度は新型コロナウイルス流行のため、活動自粛を促されました。」

(4) 苦情解決への取り組み

利用者のご家族の皆様の苦情を真摯に受け止め、適切な施設運営に資するため、苦情の有効な活用を進める。

①第三者委員会（運営推進委員会）の年2回の開催

②家族への満足度アンケートを実施し、サービスの向上を図る

「開所したばかりのえんがわは、実施には至っておりません。ひだまりでは1回の実施、1回は年度末に招集はしたものの、新型コロナウイルス流行のため中止しました。アンケートに実施等は行っておりませんが、苦情もございませんでした。」

(5) 防災訓練の実施

万一の事態に直面しても、職員が冷静に対処できるよう、日頃から訓練を行う。

①防火訓練の年2回の実施

②新人研修における防火研修の実施

③救急救命講習の実施

④災害時訓練の年1回の実施

「新型コロナウイルス流行を受けて、言い訳にはなりますが、全て実施には至っておりません。」

(6) 職員交流

①福利厚生の一環として諸交流会などを衛生委員会にて企画する。

②それぞれの事業所ごとに歓送迎会・親睦会を適時行う。

「衛生委員会は発足できておりませんが、それぞれの事業所で、感染症対応を施しながらケース会議等後にそれぞれの事業所で親睦会を行いました。今年度は新型コロナウイルス流行のため、合同会議や合同懇親会は自粛をいたしました。」

6 会議・委員会

◎月1回実施：

運営会議 概ね2か月に1回実施

新規利用者検討会 概ね2か月に1回 ケース会議を含み実施

衛生委員会 発足できませんでした

事故防止・身体拘束委員会 その都度 臨時的に実施 又はケース会議時に実施

◎ほぼ月1回実施（夏場は3ヶ月に1回）：

感染症対策委員会 運営会議の中に含み実施

◎年4回実施：

「新聞発行は行っておりませんが、請求書と同封にて活動写真を郵送しております。また、ホームページ内でも掲載いたしました。」

7 健康管理

①健康診断 年1回（7月～8月） 1年以上経過した職員に実施

②インフルエンザ予防接種（12月） 職員全員に実施

8 研修計画

「計画書は未だ作成しておりませんが、外部研修も新型コロナウイルス流行に伴い中止やモニター開催。結果として、研修計画及び研修は実施には至っておりません。しかし、新人研修は適宜行っております。」